

上野千鶴子の「運動論」はイカしてる

村田憲治（加納高校）

先日、職場の友人に上野千鶴子の「女遊び」という本を借りました。決してアブない本ではありません（笑）。社会学者であり、現在のフェミニズム運動の親分の書いた本ですからね。これが、なかなかイカしてるんですよ。

■ 上野千鶴子の「新しい運動論」

特に、運動論について述べた箇所は、いちいち「そーだよなー」と納得してしまいました。では、紹介しますね。本からそのまま引用します。著作権は大丈夫か？（笑）

① ピラミッド型からローリング・ストーン型へ

リーダーシップをまったく否定するのは現実的でない。得意分野によって自然なリーダーシップはある。それが課題別にころころ変わる。ある課題ではリーダーだった人が別な課題ではフォロワーになる。

② 直接・参加民主主義

その場において参加することが民主主義。手を出す人が口も出す。多数決のような形式民主主義はとらない。どんなことでもやりたい人がいればやればよいし、逆にどんなよいことでも誰もやり手がなければ実行できない。規則より人。形式よりなかみ。現に私の関係する集団は過激にも総会を廃止してしまった。それでも生き生きと動いている。

③ スモール・イズ・ビューティフル

「組織を拡大すること、続けること、がいいことだ」という発想を持たない。思ったとたん負担がかかるから。そのつど集まって場を共有し、それが終われば散って行く。フランチャイズ方式は採らない。支店は出さない。ただし、横に連帯してつながって、ノウハウは互いに伝え合う。

④ 「いま・ここ」での解放

「明日のために今日の我慢」を絶対にしない。今日おもしろくないことが、明日おもしろくなる保証は何もない。それなら今日おもしろいことをやる。

⑤ 同質性より、異質性

みんなが一緒だから共同する、とは考えない。場を共有した上で、違う立場、違う感じ方、違う行動が組み合わせあって、何かを作りだしていく。

⑥ 自発性と創意工夫

自発性と創意工夫を集団の中で引き出していく。「それはおもしろいね」、「やってみたら」と言い出しっぺの肩をポンと押す。ある人がうまい表現をした。「この会は、出る杭は打たれる、じゃなくて出る杭は使われる、ね。」

⑦ 情報の集中を避ける

情報は力。情報の集中や独占は、権力を生むものになる。だから極力避ける。そのためには、情報をできるだけメンバーの間で流し合って共有し合う。そのために意志決定にテマがかかったり、対応が機敏にできず立ちおくれたりすることもある。内部の情報交換と調整のプロセスに膨大なエネルギーが食われて、効率的でない。しかし、これもネットワーク型組織を維持するコストと腹をくくる。効率の原理より、連帯の原理。

⑧ 役割分担の流動化

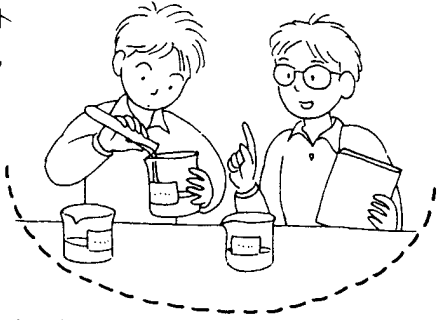
情報の人格化（その人がいないとその分野のことが何もわからない）と権力の発生を避けるもうひとつの方法は、役割分担の固定



化を避けること。短期間でころころお役を交替する。エキスパートよりはアマチュアリズム。いつでも誰でも何でもやれる、が理想。

⑨ ハレの場をつくる

運動はお祭りである。たのしければ続かない。ハリがなければキバれない。運動をハリのあるものにしたかったら、やってることを見世物にしちゃうことである。舞台をつくってお客さんを呼んできたら、誰でもイキがってハリきっちゃう。お客さんが呼ばなければ、お互いにサクラでお客になり合おう。



⑩ 仲よしクラブより苦楽を共にした仲間

たのしければ運動じゃないと言っても、お友だちつくて和気あいあい、の仲よしクラブじゃ連帯は育たない。同じ課題を共有し、それを解決するプロセスを共有してはじめて、意見の違いもはっきりするし、葛藤を調整し、克服するノウハウを学ぶこともできる。課題のない集団はジリ貧になり自滅する。

■ 未来考も、まずは「総会」を廃止してみますか？

どうですか？ 長々と引用しましたが、なかなかイイでしょう。僕は、未来考、岐阜教組、岐阜物理サークル等々、いろんな組織を思い浮かべながらこれを読みました。「あの組織はこの部分はいいけど、ここがイマイチかなー」とか、「そっかー、だからあそこは組織率が下がってるんだー（ははは、こりゃまた失礼!）」とか、「やっぱ、あそこはイイ線いってるよねー」とかね。^^^

未来考も、もっとおもしろい組織にするために、まずは「総会」でも廃止してみましようかね？